
君とおれとの最後の一カ月

沖荒 夢滝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君とおれとの最後の一カ月

【Nコード】

N7477Z

【作者名】

沖荒 夢滝

【あらすじ】

初めての恋愛小説です。

天使との最後の一カ月の日記帳です

毎週土曜午後7時更新です

第1話 ハジマリ（前書き）

初めての恋愛ものです。
どうぞよろしくです

第1話 ハジマリ

ある日現れた俺の天使・・・

だが、その天使には、俺との別れがある。

その天使の名は莢間美月。^{さやま みづき}

今月いっぱい海外に行ってしまう

だから、最後の一ヶ月くらい一緒にいてやりたい、そう俺は思っている

~~~~~

4月8日

「えっと、俺のクラスは・・・・・・あつた！3組だな」

中三になった俺、飛騨馬海斗<sup>ひろばかいと</sup>はクラス分けの名簿を見て、自分が3組だというのが解つたので、美月の名前を探した。

「あつた！海斗と一緒にだあ」

聞きなれた声のほうを向くと、そこには美月がいた。

「おう美月！ また一緒だな」

「うん！ やったね！」

美月の眼は輝いていた。

それを見ると、なんだかさびしく思えた。

「どうしたの海斗？」

キョトンとした表情で美月がこっちを見る

「いや、何でもないよ」

教室

先生がつかつかとはいってきこつて言つた

「担任の加藤弘司です、宜しく」

とだけ言って、その後は3年の行事のことなどについてつまらない話が続いて、その日の学校は終わった。

「でさー、すごかったんだぜ？」

男子の何人かが俺のところでごちゃごちゃと話している。

「わかったわかった」

俺はそっけない返事を続けていた。

「よし、じゃあ帰るか」 その言葉が終わるか終わらないうちに・

「かーいと！ 一緒にかえろ！」

「あつ、ちよつ 美月〜」

この天使、結構KYである。

すると友達が気を使い(?)

「おおっと、俺たちはお邪魔かな？」

「じゃなー海斗、ごゆっくり」

俺の友達もKYであった。(やれやれ)  
ニヤニヤしながら帰って行った。

「ったく、あいつら・・・」

でも、美月がお構いなしに

「かえろ！」

と言った。

「ふゝ、帰るか」

帰り道・・・

「なあ美月」

「なあに？ 海斗」

「おまえおれになんか隠してねえ？」

「・・・」

「隠してるんだな、それくらいはわかるわ」

「・・・うん」

「？　なんだ？　いつてみる！！」

「でも・・・」

「気になるから言えって！」

「・・・じゃあ言うね・・・私、来月アメリカに行く」  
「な！？」

どうする！？　海斗！

## 第2話 ナクナヨ

それは突然のことだった。

残されたタイムリミットはあと23日

その中で、俺のできることとは一体！？

しばらく茫然としてみると、美月が泣きだした。

「わたし、わたし、本当のこと言えなくて・・・海斗に言いたくなくて・・・うつうつ・・・うつ・・・ひぐつ」

なぜなんだ、いつもそばにいるのがなぜ美月なんだ？

俺と出会ってしまって、美月はこんなつらい目にあってしまう・・・この情けない自分を呪った。

でも、頭の中は美月でいっぱい・・・

今はただ、俺が口にできた一言は、

「美月・・・ごめんな・・・」

だけだった。

美月は

「うぐつ・・・ひぐつ・・・海斗がなんであやまんの？」

泣きながら問いかけてきた。

「そっそれは・・・」

「わたしは海斗と会えて幸せだよ・・・」

「美月・・・」

いつの間にか美月は泣きやみ、俺ににこりと微笑みかけてきた。なんだかとてもさみしい気持ちでいっぱいだった

「よーしわかった！ これからの23日間、俺がお前の一生の宝になる23日にしてやる！ ついてきな！」

「うん！ 海斗、かっこいいね」

美月はうれしそうに微笑んだ。

こうして俺と美月との長く短い一ヶ月は始まった。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7477z/>

---

君とおれとの最後の一カ月

2011年12月25日19時55分発行